

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁 I (前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	732時間 439回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	運針練習、肌襦袢作成、浴衣の仕立てを学習等						
到達目標	着物を仕立てる前工程の理解と運針の重要性を実習を通して学習し、理解する。浴衣の縫い方を理解し、一人で完成することができるようにする。						
授業計画 (内容)	針の持ち方から指導し、運針練習をしていく。また、着付けに使用する紐や補正着、肌襦袢の作成をし、基本の縫い方の練習をしていく。浴衣の縫製に必要な部分縫いの練習をし、実際に仕立てていく。各工程をしっかりと確認しながら進み、反復練習をして目標到達を目指す。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁 I (後期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	762時間 457回	学年学期	1	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁 I (前期)の復習していくと同時に、男・女物・子供物の長襦袢、袷長襦袢等の仕立て方を学習。単衣着物、袷着物の素縫いなどの仕立て方を学習。						
到達目標	それぞれの縫い方を理解し、1人で完成することができるようにする						
授業計画 (内容)	長襦袢の仕立て方を学ぶ。各工程をしっかりと確認しながら進み、反復練習をして、目標到達を目指す。単衣着物、袷着物の素縫いに進むための部分縫い練習をし、仕立て方を学ぶ。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅱ(前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	760時間 456回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子、秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅰの復習をし、技術向上をはかる。単衣着物の仕立てを覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で制限時間内に完成することができる						
授業計画 (内容)	8月までに浴衣の試験を数回行い、仕上がりの向上と時間短縮を目指す。長襦袢は仕上がり向上と時間短縮を目指し、応用を学ぶ。単衣着物を覚え、生地の性質を理解し、完成度を上げる。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅱ後期						
対象学科	師範科	時間数 回数	790時間 474回	学年学期	2	必修・選択	必修
担当教員名	秋山杏子・秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅰと和裁Ⅱ前期の復習と発展、単衣着物、袷着物の素縫いとまとめを習得。						
到達目標	長襦袢、浴衣の仕立ては完成度の向上、時間短縮を。子供物、二部式等少し違う形のもの仕立てはその習得を目指す。単衣、袷着物の素縫いでは生地 の性質に注意しながら安定した仕上がりを目指す。素縫いの完成度、目標時間をクリアしたらまとめ工程に入り、袷着物を1人で完成できるようにする。						
授業計画 (内容)	長襦袢、単衣着物、袷着物素縫い、まとめ、各工程で目標を設定し、達成を目指す。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
実務経験の内容	和裁企業の所属し、和裁の職人として仕事をしていたことを生かし、自らの経験から、学生が早く正確に着物を美しく縫い上げることを指導していきます。						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅲ(前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	775時間 465回	学年学期	3	必修・選択	必修
担当教員名	北原和奈・秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅱの技術向上をはかり、復習していく。単衣羽織、袷羽織の仕立て方を覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で制限時間内に美しく完成することができる						
授業計画 (内容)	和裁Ⅱで行った浴衣や長襦袢、単衣着物、袷着物の仕立ての更なる技術向上をはかり、時間を意識し、反復練習をして、美しく仕立て、目標到達を目指す。単衣羽織、袷羽織の仕立てを覚え、目標到達を目指す。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅲ(後期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	808時間 485回	学年学期	3	必修・選択	必修
担当教員名	北原和奈・秋山美宙		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	付下、訪問着、振袖、留袖等の絵羽物の仕立ての実習、祝着揚げの実習、和裁Ⅲの復習をしていく。羽織の仕立て方を覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で完成することができる						
授業計画 (内容)	付下、訪問着、振袖、留袖等の絵羽物の仕立ての実習、祝着揚げの実習をしていくことで、まずは仕立て方を覚え、目標到達を目指す。羽織の仕立ての知識を身に付け、仕立て方を覚えていく。仕上がりの完成度を上げ、時間短縮をしていく。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅳ(前期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	645時間 387回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	大濱光美、三内美咲、濱脇彩乃		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	和裁Ⅲの技術向上をはかり、復習していく。コートの仕立て方を覚える。						
到達目標	縫い方を理解し、1人で制限時間内に美しく完成することができる						
授業計画 (内容)	和裁Ⅲで行った浴衣から絵羽物までの仕立ての更なる技術向上をはかり、時間を意識し、反復練習をして、美しく仕立て、目標到達を目指す。道中着、着物衿コートの仕立てを覚える。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	和裁Ⅳ(後期)						
対象学科	師範科	時間数 回数	646時間 388回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	大濱光美・三内美咲・濱脇彩乃		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	今まで習った着物の仕立てについて、その技術を今後職業として通用するレベルまで引き上げるための実習を重ねていく。また後半は、道行コートや変わり衿コート等も学び、その縫い方を覚え、1人で完成できるようにしていく。						
到達目標	着物を1人で仕上げられ、扱いの難しい生地にも対応し、職業として通用する常に安定した技術習得を目指し、さらに着物用のコートも1人で仕上げられるようにしていく。						
授業計画 (内容)	袷着物等を中心に、縫う正確さや速さをさらに磨くための実習を重ねていく。また、道行コートや変わり衿コートの理解度の向上をはかっていく。 袷着物の仕立てに関し、職業として成り立つ正確さ、速さへの到達を目指すことと、道行コートや変わり衿コートの縫製について他とは違う点を確認しながら、実習をしていく。着用者にとって、より良い寸法の取り方、難しい生地の扱い等、自分で判断できるよう意識して実習をしていく。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
実務経験の内容	和裁企業の所属し、和裁の職人として仕事をしていたことを生かし、自らの経験から、学生が早く正確に着物を美しく縫い上げることを指導していきます。						
備考							

## 別紙(様式1)

2024.4

科目名	裁断実習						
対象学科	師範科	時間数 回数	366時間 220回	学年学期	4	必修・選択	必修
担当教員名	片桐由希菜・木股忍・三内美咲		実務経験の有無	有	授業形態	実習	
授業内容	浴衣、長襦袢、単衣着物の裁断の復習。袷着物の柄合わせの仕方、羽織、コートの裁断及びへら付けを学ぶ。						
到達目標	基本の裁ち方をしっかり身に付け、さらに柄出しや寸法の取り方等、自分で考え判断できるようにする。指示通りできない場合等の対処法等も学び、自分で解決できる力を身に付ける。着物類が覚えられたら、羽織、コートの裁断も覚えていく。						
授業計画 (内容)	【4月～8月】浴衣、長襦袢、単衣着物を数多く裁断し、基本動作を身に付けるとともに、柄出しや特別な指示に対応できるように実習を重ねていく。 【9月～12月】袷着物を中心に裁ち方の習得をし、基本的な柄合わせの仕方等を学ぶ。工程が多い分、時間内に効率よく作業できるよう実習を重ねていく。羽織、コートの裁断も学んでいく。 【1月～3月】袷着物、羽織、コートの裁断の理解度の更なる向上と、裁断の正確さ、スピードを意識し、実習をしていく。						
成績評価方法	学期末までに日々の課題の状況、平素の授業態度等を合わせ、50点以上を合格とする						
実務経験の内容	和裁企業の所属し、和裁の職人として仕事をしていたことを生かし、自らの経験から、学生が早く正確に着物を美しく縫い上げるために効率よく反物を裁断していくことを指導						
備考							